

SCJ 記録認定会 実施要項

以下に記載がない事項については、SCJ 記録認定会の事業趣旨を鑑み、認定員と SCJ の協議により決定する。

1 SCJ 記録認定員の監督

- SCJ 記録認定会を監督するには、すくなくとも 1 名の SCJ 記録認定員（以下、認定員とする）が実施に立ち会う必要がある。
- 不慮の事故により、当日監督する認定員が不在となった場合は、SCJ 記録認定会は成立しない。

2 参加者

- 参加人数の決定や承認方法は、認定員の裁量による。事前の参加申込や当日飛び込み参加など、妥当な方法を採用してかまわない。
- 参加者が年少者などの理由から参加者本人に責任能力がない場合、保護者や後見人の同伴が必要となる。
- 主催者は、円滑な事業運営のため、参加者の募集対象をいくつかのカテゴリに分け、その全部または一部に適切な制限をかけることができる。
 - 国籍
 - 居住地
 - 年齢
 - 過去のイベント参加経験
 - 抽選
 - これらの複合条件
 - その他、妥当と認められる事項

3 パズル

- 記録認定会に使用する 3x3x3 キューブパズルは参加者が持参する。
- 明らかに参加者が利益を得るようなものでない限り、一般的なパズルを使用できる。

4 記録認定証

- SCJ 記録認定会で発行する記録認定証は、SCJ が公式に発行するフォーマットの用紙(以下、用紙と呼ぶ)を用いなければならない。市販の一般的な賞状用紙などで発行してはならない。
- 用紙は、認定員のみを対象として提供する。詳細は別途定める。
- 認定員は、参加者数を予測し、当日の飛び入り参加や書き損じなどのトラブルを考慮した適切な枚数の用紙を準備する。

5 SCJ 記録認定会の開催告知

- SCJ 記録認定会を開催するとき、認定員はその企画概要を事前に SCJ に通達しなければいけない。SCJ は内容を審査し、不適切な点については変更を求める場合がある。
- SCJ 記録認定会の実施は、その開催を広く一般に公表せず、一部のグループや対象者のみに限定することができる。ただし前項に定めるとおり、SCJ には必ず通達する。
- SCJ 記録認定会の実施を広く一般に公表する場合、認定員は適切な媒体を準備してその概要や参加方法、問い合わせ連絡先などを周知しなければいけない。
- 集客などを目的として SCJ 記録認定会の実施を宣伝したい場合、SCJ の web サイトや SNS での宣伝を依頼することができる。ただし、SCJ は前項で定める一次媒体への誘導のみを補助する。SCJ の持つ媒体に一次情報を掲載することはできない。
- SCJ の後援をクレジット記載する場合、以下の表記に倣い「主催」「後援」をセットで記載する。SCJ が主催であると誤認されないよう、後援のみの掲載は認めない。
 - 主催：個別の実行委員会名や個人名
 - 後援：一般社団法人スピードキュービングジャパン (SCJ)

6 認定部門

- SCJ 記録認定会で認定する部門は、SCJ 段級位認定基準の対象となっている部門に限る。
 - 3x3x3 キューブ 6 面完成
 - 3x3x3 キューブ 1 面完成1 面完成とは、任意の色の面にその色が 9 マス揃っていることである。いわゆる完全一面である必要はない。
- 記録認定証には、以下を記載する。印刷でも手書きでも構わない。
 - 認定対象者の氏名
 - 発行年月日
 - 有効年月日 (発行日同日の 1 年後)

- 参加部門
- 記録タイム
- 部門と記録に基づく SCJ 段級位認定
- 発行する SCJ 記録認定員の登録名がわかるサインもしくは押印
- SCJ 記録認定会の実施結果や、個別に発行した記録認定証やその記載事項は、必ずしも主催者から一般に公表する必要はない。これは、個々の参加者が自身の結果について公表するのを妨げるものではない。

7 認定のルール

- 競技環境
 - 本番計測を行う環境は、会場内で明確に区別された空間で、SCJ 記録認定会を実施しているあいだには別の目的と併用してはいけない。
 - 本番計測を行う際、机の上は必要最低限の備品のみに保つ。
 - ◇ 本番計測に使わないパズルは、机上に置いてはならない。
 - ◇ スマートフォンやタオル、カイロなどの携帯品は、机上に置かないことが望ましい。このため、認定員は本番環境の周囲に荷物置きスペースを準備すると良い。
 - ◇ 試技の撮影は、机上にカメラを置いての自撮りではなく、保護者や別の参加者などに依頼することが望ましい。
 - 参加者は、本番環境でのタイマー操作練習や、予備パズルを用いた計測をしてはいけない。
 - ◇ SCJ 記録認定員は、本番環境を模した練習用スペースを別途会場内に設け、タイマーの操作方法など一連の流れを予習する機会を十分に設けることが望ましい。
- 計測器具
 - タイムの測定には、スピードスタックス社が販売するタイマーのうち、G3, G4, G5のみを認める。その他のメーカーの製品や、ストップウォッチ、スマートフォンのアプリなどによる測定はすべて認めない。
 - ◇ 小数点第3位まで計測できるバージョンの場合、第3位の数字はすべて切り捨て、小数点第2位までの表示を採用する。
 - タイマーに接続するディスプレイは使用しなくても構わない。使用する場合は、スピードスタックス社が発行するブランド製品のみを認める。
- 記録形式
 - 認定する記録は単発記録のみとする。

- 挑戦の結果、DNF(記録なし)や 10 分を超えて段級位認定の対象外となった場合、記録認定証の発行は行わない。
- 挑戦回数
 - 挑戦回数は、同日内にひとり 1 回のみ限定する。同日内に複数回の参加はできないが、翌日にはまた参加できる。参加者の ID 管理をしない場合、SCJ 記録認定員は、複数回参加を認めないように最大限の注意を払う必要がある。
 - 参加者本人の責任ではないトラブルが起きた場合に限り、その記録を破棄してのやり直しを認める。
 - ◇ 参加者本人の責任であるものと考えられ、やり直しを認めない例
 - 緊張などによって、本人が期待したよりも悪い結果となった場合
 - タイマー停止時、パズルがずれていることによる DNF
 - タイマー操作の不慣れによって、タイマー停止時にパズルが完成していない場合
 - ◇ 参加者本人の責任ではないと考えられ、やり直しを認める例
 - タイマーなど器具の故障
 - 会場の停電、突発的な騒音などの環境要因
 - スクランブルなどの誤操作で、競技開始時点でのパズルが完成不可能な状態だったと証明できた場合
 - その他、明らかに本人が不利となる妨害を受けた場合
- スクランブル
 - パズルのスクランブルは、SCJ 記録認定員か、もしくはその記録認定員の責任において十分な能力を持つと認められる担当者が行う。
 - スクランブルの結果、任意の色の面にその色が 6 マス以上揃っていた場合は、再度スクランブルし直す。
 - プログラムでランダムに出力したスクランブルを適用する必要はない。十分に混ざった状態だと SCJ 記録認定員が判断できれば良い。
 - ◇ プログラムで出力する場合、参加者ごとに異なるスクランブルを用意する。印刷した用紙を参照するなどして同じスクランブルを使いまわしてはならない。
- パズル完成状態の定義
 - 1 面完成：3x3x3 キューブ 6 色のうちいずれか 1 色の面がひとつ揃った状態。いわゆる「完全一面」である必要はない。
 - 6 面完成：3x3x3 キューブの 6 色 6 面がすべて揃った状態。
 - 1 面完成部門、6 面完成部門ともに、完成状態から 45 度以上回転がずれた状態は未完成とみなす。この状態でタイマーを止めてしまった場合は、DNF(未完成、記

録なし)として扱う。

- インспекション
 - パズルを解き始める前に、パズルの状態を観察し解き方の作戦を立てる時間(インспекションタイム)を最大 15 秒与えられる。
 - 15 秒は最大であり、参加者は無理に 15 秒待つ必要はない。準備ができたなら、自分のタイミングでタイマーをスタートさせパズルを解き始めてよい。
 - タイマーをスタートさせる前にパズルを回転させてしまった場合は失格(記録なし)とする。
 - 15 秒は目安であり競技参加者の主観による運用で構わない。スタッフがストップウォッチなどを使って厳密に測定しなくても良い。
 - ただし、明らかに 15 秒を超過したと判断された場合は失格(記録なし)とする。

8 記録認定会終了後の手続き

- 結果の報告
 - SCJ 記録認定員は、記録認定会の実施の公表/非公表によらず、すべての結果を所定のフォームから SCJ に報告する。
- 結果の集計と公表
 - SCJ は、集計された結果を適切な範囲で公表することができる。

9 記録認定の取り消し

- 記録認定員の監督に悪意ある運用や不誠実な行為などが認められた場合、SCJ はその記録認定員が担当した過去の認定結果に対して、遡及的にすべての認定を取り消す場合がある。